編

第三節 村

[1]

村況に関する報告書

熊野町

織田家

「諸事上リ控帳

況

(含戸口)

右之書付弐通差上ヶ申候、 岡田岩右衛門様

以上

[2] 宜キ男届け出書付

宝曆十二年

安芸郡川角村宜キ男改帳 控帳但弐冊差上ル (表紙)

午正月

同三拾三中 歳三拾中

同弐拾七中

同弐拾五中 同三拾壱中

右之通相違無御座候、

以上 庄屋

丑三月 [富麗七]

牛七疋

人数百弐拾六人 家数弐拾八軒 御帳付樫三本

同 同 同 同 同

村 村 村 村 村 村

以上

太兵衛

合五人中

熊野町

「川角区共有文書」

一高百六拾壱石三斗畝数拾五町六反弐畝廿四歩

安芸郡

角村

覚

腰林三拾五ヶ所

山弐ヶ所

但シ柴草山

御建藪壱ヶ所

(横 田 拾 間

同

村

西山崎与三郎 一 古姓ほり源七仲

吉兵衛

「宜き男」とは村内の屈竟な男性のことで、

(解説)

として確保していたものである。「宜き男」としての条 火急の場合に強力・軍夫として活用できる人数を、 藩府

運び人夫を徴集したときには、十五歳から五十歳までで 件は不明であるが、幕末の長州の役に際して諸道具持ち

右男人数之内

六拾八人

女

妻

娘・掛人・下女共

どの特技を持つ者を調査しているので、これらも条件の 足が早い・力持ち・木登りが上手、井戸掘りができるな

庄屋

内

五人

禅門

浮世 百姓

過

壱人

三拾七人

掛人・家人共

弐拾六人

一人役が勤められることが条件となっていた。さらに、

宝暦六子年改ニ壱人増し「貼紙」

宜キ男五人中

/別帳ニ書出し申候/人別名歳

右者去巳年極月晦日迄之改、

相違無御座候、

以上

宝曆十二年午正月

庄屋

吉兵衛

つとなていたものと思われる。

[3]

[但し馬改め見えず] 安芸郡川角村人馬改目録控

川角区共有文書」

林甚左衛門

様 様

III

崎鹿之助

粕谷十郎兵衛様

覚

安芸郡川角村

九人増宝暦六子年改三

惣人数百三拾七人

内

六拾九人

男

宝曆六子年改二九人增[贴紙]

第三章

近世の資料

[4] 村況に関する報告書

覚

川角村

織田家

「諸書附控帳

畝数拾 五町六反弐畝廿四 歩

高百六拾壱石三斗

畝数九町四反八畝十七歩 内 拾六石五斗九合

残九拾七石三斗

毛附高

惣人数

家数

同牛馬家

廿五軒

三拾五軒 弐百三人

三軒

四拾七石四斗九升壱合

上リ高

牧野久大夫様

野村孫兵衛殿

川角村国郡志書出帳

[5]

「川角区共有文書」

国郡志御編集ニ付諸色書出帖 文化十二年

亥正月

安芸郡

Ш 角村

S かい ~

川角村

灰小屋

蔵

東西

馬

壱疋 七軒

御給主 浅野孫左衛門様

村内土地合之事

洪水二付、

当時川筋凡三町五反程小ごみ砂

=

相 成 度々 申

無御座候

古城跡

文政十三寅六月十日

庄屋

同 南

村 北

二、街道

四

一通リ

Ш

端南北ニ当リ、

往古者黒ほや土ニ御座候処、

拾五丁四

拾

九丁三拾八間

四郎右衛門

[又川すそ川上りと申□□□程荒地ニ相成居[點紙にて抹消部分]

申候得

共 少し 成 洪 水 = 而 茂水 增 りニ 相 成口 田 畠 相

不申 候

村広狭之事

西東 九丁三拾八間

北南 拾 Ŧi. 丁 四 I拾間

、西北へ拾六丁拾間 東西北南 〜拾三丁廿 間

礼 ☆境 ≷野 ₹村

当村る東北境熊野村、

西境平谷村、

南境

(押込村

隣境村名之事

村名小名

垣≧か田 垣内 三反垣内から免はん田垣内 ほう垣内

堀

内

段

瀬さき 垣

> 正之坪 西わだ

原 木わた地 神出

火の原

一畝歳 凝額之事

田 西

畝 数拾五丁六反弐畝 # 四

歩

高 百六拾壱石三斗

六町 七 北

别 此 高 [六拾] PU 石 壱斗 别 荒闉

丰

高

第三章 近世の資料 ₹残

九丁四反八畝

≷拾

≷七

₹

>手

≥附

冷高

同 同 [ii 御

弐

"

Ŧî. Ŧi. DL.

悲

宝曆

九卯年

内 拾六石五 斗九

成

74 七石五斗九升 合 一一一

残九拾七石弐斗

毛付高

改数九丁四反八畝 拾 七 歩

慶長 六年地. 概 御 奉 森

行

猪

莇

様

壱段 = 付概高壱 石 : 弐升六合

Ŀ

田

=

壱反 付壱石 下々田六斗代迄九段 24 一斗代

壱反 = 付 九斗代な

上畠

下々島三斗迄

九段

当土免弐ッ五 敷 島壱反ニ 步 | | | | | | | 付壱石五斗代

屋

免 壱ツ 九 悲

=

米壱石

御

種米厂

五石

歩 享保 天和三 + 一亥年

厘 寬延三午年 -七子年

弐ッ 弐ッ

步

Ŧî.

同 同 浅

7ツ五. ツ七 步弐厘

歩

同 十辰年

寛政三亥年

諸上納米銀

但シ御蔵納リ

米壱石壱斗弐升九合壱勺

同壱石六斗壱升三合

壱歩米

七厘米

壱石九斗三升五合六勺 夏上り

内

八斗六合五勺

銀六拾六匁五分

諸 小物成銀

| 拾三匁弐分五厘 夏上り

三拾三匁弐分五厘

秋上り

内

諸給分

米弐石四斗

同五斗

百

庄屋給

筆取 米升給 給

御屋敷様御山番給

同鍵預 八幡山 IJ 給

同六升

同壱斗七合 六斗五升 弐斗五升

御免

弐ツ五歩弐厘

毛附高

二付物成

秋上り

同三歩八厘五毛

同四厘三毛五弗

(四斗弐升弐合八勺

· 夏秋両度壱歩厘米

同 五歩弐厘七毛

同六歩九厘 同壱ッ弐歩六厘 五毛

> 諸給分 并村入役銀共

、但シ、壱人ニ付一升弐合、夫割辻五百五拾八人五歩

社倉麦拾五石四斗五升八合六勺 拾石三斗六升八合 四

[拾四人救用

戌年取立麦辻

内

永賃シ麦

同三斗五升

同

四

升

同 弐斗五升

同壱斗六升

五石壱斗弐升七合

年行司給米

御種米闘キ

広島宿賃 (罷出候節出飯米)

五石九斗六勺

村日受土地合之事

郷中南東向土地 合 (ほり垣内 赤土

正 一の坪 ごみ砂 四 しわだ ゆちろ

赤ごみ 瀬さき 真砂

西垣内

当村形勢気候民戸産業之事

西南山高ク、 小川北

を南へ流ル、

井手東北

ニ当リ、 北東平地、 大川筋東る西 南 雨池東西南 流 ル

北二有、 Щ 所肥シ草等少ク、 作方日和ヲ好、 五步

方耕作、 四歩方山業、 壱歩方商売人、 都而 統難

渋村

風俗之事

婚礼・元服、

格別儀式と申分ケも無御座候、

八幡宮

御祭礼、九月廿九日御旅所

山之内きふねと申所

浜弓・羽具板等家ニ寄リ少々飾、

是を儀

尤三ヶ日之間、

農業・挊業ハ不

と仕候

五月節句 紙幟家々ニより少々立□小を任、

是を儀

式と仕候

此外節句何之儀式も不仕申候

₹月節句 ↑↑月節句 栗少々味、 是者何之儀式も無御 ≷栗 食、 ≷座《候

人気 柔方ニ而農業ヲ第

一と仕候

行程標的 釈迦堂

右郷中ニ有之、 是を目当と仕候

所々里程

当村目当之ヶ所な隣熊野村目当之ヶ所迄

八幡社鳥居る釈迦堂迄 十八丁

当村之分 四丁三拾間

熊野村分 拾三丁三拾間

同平谷村目当之ヶ所迄

八幡社な釈迦堂迄 拾四丁

第三章 近世の資料 三月節句

土人形等飾り、

草餅をそなへ、是を儀式

正月儀式

仕申候 式と仕、

当村之内 六丁 平谷村分八丁

区山島迄 但シ西ニ

当 ル

四里半

壱里半

実 里 半

一八幡山

但

シ

毛上樫雜

木

横立竪 横立竪 弐四 丁丁

但シ

腰林山

三拾五ケ所

毛上雜木小松柴草山

同 海田 市 駅所

同 · 矢野村海辺迄

• 郷原村な広島

罷出

[候道筋

一半 大^田 川

川幅川上熊野村境

==

面面

七五間間

深サ三間

当村之間、

拾壱丁

但シ熊野村境は平谷村

右川上熊野村境ゟ押込村境迄

拾弐丁三拾間

苗

代付 往還路

川半田 橋 が往還 = 有之候外、

一宮 四川 川川

Ш

福川下当村内ニ而

丽

弐壱間

深

++

間

半

半

近道無御座候

右半田

一御建藪

土地悪ク

壱ヶ所

右川

Ë

ニ而たいとう地井手と申候弐拾間程熊野村之内ニ御座候

而 此所

堰 П

大川神田と申処へ宮原新角地
よ小川

流筋 入七

T

四拾八間、

一御建山(

(| 機四拾間 土地悪ク

右

者浅野孫左衛門様御留 而御

座候

一小川少シ

Ш

|幅壱間半川下押込村境ひろいかけ迄||三丁

壱 シケ所

右川

式流御

普請之節者郡夫被遣来り

=

御

座

候

-14

野山山

深どう山

毛上柴草山

弐ヶ所

一半田は上橋

幅長サ

六六 尺間

壱ヶ所

壱ヶ所

一同 長サ四丁三拾間 壱ケ所 一同深どう井手 反拾五半	· 長寸三丁八間 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	ナスト人間	一同 長サ壱丁拾間 壱ケ所 一同 ぱう井手	一同 長サ五丁廿間 一ケ所 ぼ中井手	一同 長サ八丁五拾間 壱ヶ所 上井手	一井手 長サ八丁三拾間 壱ヶ所 源ぞう池	屈請中手 (四丁拾一間)当村之内 - 売ヶ所 せとぶ	拾間 熊野村之内 景子 江	一同 川幅弐間 井手長サ 弐	受田中手 一同 右損所之時者郡夫御聞届御座候 つぶれ池	(五丁拾間 当村之内 壱ヶ所 一雨池(四丁三拾間 熊野村之内 壱ヶ所 さるご池	一川堰所 川幅拾間半 井手長サしんじゅく 熊野村内ニ御座候	一石橋・ぼう谷・	in P.J.
水溜り壱反七畝程熊野村之分	新角池熊野村分ニ御座候、	同 五畝拾歩	同 弐反拾歩	同を反程	同 老 反 五 前		同 壱畝程	同 壱畝廿歩程		水溜リ三畝拾歩程	(此溜り四反五畝程		中道・わだ・同向・半田道	: : : : : : : : : : : : : : : : : : :
壱ヶ所	尤弐反七畝拾五歩之内壱	壱ヶ所	壱ヶ所	壱ヶ所	をを		壱ヶ所	壱ヶ所	i.	壱ヶ所	でを		道同 六ヶ所	j

第三章 近世の資料

神 祠

三ヶ所

二年

付御

殿

•

拝

殿 共流、

其後木舟:

山 と申

所

立

カン 洪

仕 水

申、 =

当

一時木舟山

八幡宮と奉申候

内

幡 宮御 屋 横立式 間間 拝殿 ん 横立 六 間間

但

L

祭礼九月廿

九日

鳥居

壱社

主 同 郡矢野村 香川 日向守掛持

神

但 L 神主右 同 入掛持

稲

荷

壱

間

四

方

壱社

荒神 立 壱間 横 五尺

壱社

但 L 神主右 同人掛持

寺 同 広島 同 西 寺 寺 ,町真宗超專寺右 可真宗光円寺代 一々日 那

壱 壱

真宗真行寺右同 断

断

壱ヶ寺

≷一

₹目

≷百

ケ ケ 寺

< 本 社 倉 貯 蔵 、

≷銘

ҳ地

≷之内

☆無代ニ

≷而

≷差 ≷相

≷建 ≷候

₹段

同 百

当郡

寺

町

勤

X

来 矢野

b

御

座候

壱

5

>111 ≷角 ₹村

≷庄

≷屋

₹ ₹五. 文≯

≷四 ≷郎 ₹右 ≷衛 >門

除段、 < 甚< 奇 ≿厚蔵 はは建候節、

御用銀之内差出

≥相

≷調

>111 ≷角 ☆村庄屋 ≷四 ≷郎 ≷右

≷衛

科門

全土地永久之奇特ニ付御褒美被下之

川角村 | 百姓

右社倉法之儀、 鳥目 弐百文 志厚蔵相建候節、 四 拾 Ŧī. 人

差出相調候段、

甚奇特之至二付、

為御褒美被下之 入用銀之内銘

なら

廃祠

釈迦堂

竪弐間横壱間

右寛文年中迄ハ神出と申 所 = 八幡社御座 候所、 寛文

四 郎右 衛門

鳥目 百文

社倉法之儀、

志厚出

精致追加、

依之郡

用

統本法

胡瓜り 大角

5

b

綿

御革禁給茸蒜

主様

御 留

御蓴菜

様

御

密

さいしん

胡

麻 小

烟草

さつ

ま芋

あ

5

\$

なすび

悉皆及全備、 何茂甚奇特之至二 付 為御褒美被下之

>111 角村百姓

鳥之類 薬之類

鵬雀 桔梗

鳩

萬

鳥き

雲だる

右少

K

居 斑鳩

松さ

槙點

杉

柳か

桐ず

柿かき

梨な

≷鳥 ≷目 ₹百 ≷文

>-

≥社 ≷倉 ≷麦 ₹石 ₹巳 ~下

≷石 ≷追 マスト

茂基奇特之至 ≷志 ≷厚 ≷出 ≷精 ≷追 < 加、 ≷依之郡 ≷為 ≷御 · 褒美被下之 ≷内 **>**— ₹統 本法悉

>川 ≷角 ≷庄

* 及全備、

≷何

├─ **├**─ ≿百 ≷鳥 ₹目 ₹五. ≷三 ≷文

☆拾ҳ文 ≷長 ≷四 ≷郎 ₹百 ₹姓 ≷右

ミ三 ≷衛

ҳ右 3 -さ者とメ ≷納 ≷近 ≥物 ₹年 ₹相 ≷追 ≷励 之次 **≷及** ⟨候 〈段、 ₹穀 冷奇 ≷候 ≷特 ₹趣 >= < -<付、 <厚 ≷為 ≷御 かじ ≷得 ◎褒美被下之 >-₹統 ≷居 3 5 ≷合 ≷宜

第

三章

近世の資料

栗』 松 椿はき 榎ゴ

草之類 蒲公英 志ん菊

よめ しう ま ふだん草

な I ば

ts よ
よ
き か 5 ĺ ひずり

۲

たか

花之類

けいとう

菊 n

さぎそう

もぢずり

お

もそで

世

右 11 次 居 獣物之類

獅子

猪

鹿

卯鷺ぎ

土豹

農道

鋤 具之事 4 鳅

鳅 錯か

居ィ

鎌 鎌ま は た 鳅 お L 切

401

物 産

小麦 蕎 麦

粟 V,

黍

大根

大豆 豆

豆

大麦

${\rm I\hspace{-.1em}I}$ 資 料 編

農余浮儲藁仕事 ゑんぶり こぎ 木綿織のベ 丸籠

右耕作之廢儲二仕候

家数七拾軒

内三拾五軒

百姓家

弐 軒 弐拾四軒

蔵

九軒

灰小屋 牛屋

メ七拾軒

一牛拾五疋 但し牡

X

右当村之儀如斯二御座候

以上

文化十二年

亥正月 御屋敷様

指上同様事

庄屋 四郎右衛門

長百姓 多郎右衛門

伝吉

同

割庄屋上瀬野村

利兵衛 太右衛門殿 殿

牛田村庄屋

人数合百七拾壱人

内

男 女

八拾弐人 八拾九人

百姓

百弐拾七人 三拾弐人

右懸り人

浮過

文化度国郡志(熊野村のみ抄出)

[6]

呉市沢原梧郎家所蔵 呉市史編さん室寄託

八人 四人

右懸り人

村広狭 村内土地古今変改之事 村名之事 瀬替、 不申候 当村之義ハ、只今迄洪水ニ而田畠荒地相成、 又熊野村与唱候事、何之頃ゟ相唱候哉、年来相知 当村之義ハ、 中古橋賀村与相唱候由申伝候得共、 文化度国郡 熊野村 道筋附替等土地変改無御座候 安芸郡 熊野 焼山 上瀬野村 御御明知知 志 押込 苗代

村内小名

当郡川角村南へ当ル 同郡郷原村南東へ当ル

同奥海田村西へ当ル

同中野村西北へ当ル 同平谷村西南へ当ル 当郡苗代村南へ当ル 同郡津江村東へ当ル 隣境村名之事

(西北へ凡三拾三丁

東北へ凡壱里半

南北壱里三拾四丁

当村内間中な

東西凡壱里半

賀茂郡熊野跡村東北へ当ル

田畠歳額之事 惣畝弐百五拾弐町六反三歩

高弐千五百五拾八石六斗五升

延享三寅年御地こふり

呉地 新宮原

萩原 初神

出来庭 城之堀

中溝

御奉行

川筋

後藤金次右衛門様

西川文右衛門様

小出字平太様

第三章

近世の資料

畝

I

資

料

編

弐百弐町弐反四畝弐拾七歩 檗斗代壱石壱斗一升

合九毛八弗

下上田

弐千弐百四拾六石九斗八升四合 田 方

田 四反六步 壱石八斗五升代

壱反ニ付

上々

六町七反七畝九歩 七石四斗三升七合 同壱石七斗六升代

上田

此分米

合

同 [百九拾八石壱斗弐升壱合 上中田

拾壱丁九反三畝拾五部ママで歩、

同

百拾九石弐斗五

上下田 弐拾町七反三畝弐拾四歩

同三百弐拾三石五斗壱升三合

中 上田 拾八町七反八畝弐拾四部

同 六 千 石 四 斗

同弐百七拾四石三斗五合

司 古 九拾 Ŧi. 石六斗九升 中

 $\dot{\mathbb{H}}$

拾四町三反八畝廿七部

同壱石三斗六升代

中 九 田 拾弐丁三反五畝廿七部

同百五拾五石七斗弐升三合

畝 弐百六拾弐石七斗三升三合 四拾七町七反弐拾七歩 可 四拾

中下 田 拾壱町 Ŧi. 反六畝拾八歩

拾四石壱斗六升六合

Π

百

拾三町六反壱畝 同壱石七升代

同百 四拾五石六斗弐升七合 计四部

下田 拾七丁壱反八畝

同九斗六升代

同

百六拾五石五合

同

八斗六升代

下中田 拾九町六反八畝三部

可

百六拾九石弐斗五升七合

下々 田 弐拾 三町 九反六畝拾五部

同七斗七升代

同百八拾四石五斗三升壱合

見付上 田 拾弐町弐反六畝弐拾四部

同 六六 升斗 代

同 一 一 一 一 七 五 二 十

見付中田 同 1八拾石九斗六升九合 七町九反四畝拾弐部

同五斗六升代

拾丁六反四畝三歩 同四斗六升代

八石九斗四升

九

合

見付下田

可

四

1拾四

石四斗八升六合

弊斗代五斗五升六勺九才 島方

404

同志石代

斗

同弐拾壱石弐斗三升八合	下中畠 三町七反弐畝拾八部	同三拾七石三升七合	下畠 五町七反廿一歩	同弐拾七石五斗三升三合	中下畠 三丁八反弐畝拾弐部	同弐拾石四斗三升弐合	中々畠 弐町五反五畝拾弐部	同三拾壱石四斗一升六合	中畠 三丁五反七畝	同弐拾六石壱斗九升八合	上下畠 弐町七反弐畝廿七部	同拾三石八斗四升弐合	上中畠 壱町三反三畝三部	同四石弐升六合	上畠 三反拾八歩	三合 此分米四拾八石九斗三升	屋敷 弐町六反拾五部
	同五斗七升代		同六斗四升代		同七斗弐升代		同八斗代		同八斗八升代		同九斗六升代		同壱石四升代		同壱石壱斗代	壱反ニ付壱石八斗	
一四つ五部	一四つ六部	一四つ五部五厘	一四つ五部	一四つ六部	一四つ六部五厘	一四つ七部	一四つ六歩	年々御免	右田畠惣槩斗代壱石壱升弐合九勺弐才壱毛七弗余	同弐拾六石八	見付下畠 拾町	同拾三石壱斗壱合	見付中畠 三町	同拾八石五寸	見付上畠 四二	同弐拾弐石五	下々畠 四町六
同九卯年	宝曆二申年	同五辰年	延享四卯年	同五申年	同四未年	同三午年	元文弐巳年		石壱升弐合九勺弐才	同弐拾六石八斗弐升弐合	可七反弐畝廿七部	+ 壱合	可九反七畝	五斗弐升四合	四丁五反壱畝廿四部	五斗六升四合	四町六反拾五部
									壱毛七弗余		同弐斗五升代		同三斗三升代		同四斗一升代		同四斗九升代

第三章 近世の資料

四 疋 1つ六部 つ六部壱厘 六厘 同 同 + 十二午年 辰 年

四 つ六部九厘 (安永弐巳年6

7

当御免四つ七部八厘三毛八弗 諸入用壱つ 四 部 Ŧi. 但夫方共

御 免 (下リ詰四つ五部) X

六つ弐歩三

一厘三毛八弗

去亥年分

内

七斗五

升

所蔵下御年貢

同所蔵番給

同

厘

諸上 一納米銀

銀

拾四匁

内

七七

匆匆

秋夏 上上 リリ

鹿鉄炮御運上銀

秋夏 上上 リリ

同

. 弐百八拾九匁

(百四拾四匁五分

職 人水役銀

同

古 内

五拾

目

内

七拾五匁

秋夏 上上 リリ

七 厘 米

米拾

七石七斗

一壱升八合

百

武拾五石四斗五升

壱歩米

小物成 瓜山札銀

年二寄増欠御座候 此引高毎年割増欠御座候故

諸給分米 、拾弐石七斗弐升五合 拾壱石 三拾三石七斗九升 庄屋給 秋夏 上上 リリ

内

四石五斗 六石六斗 筆者給

組頭給

六斗 年行司給

三石弐斗四升 弐石九斗 野山 御山 升取給 番給 番

六斗

Ħ. 升

庄屋引高 五拾 石

頭引高弐拾壱石

= 1 組

米八斗九升五合

三石五斗五升

小走給

テ七拾壱石、 此夫七

壱人五歩懸り、 拾四人六步、 高 但 二付

宛

夫壱人ニ付壱升弐合

社倉麦三百三拾九石一 内百壱石 五斗 御囲 斗九升壱合 | 籾見込 /当亥年

内 汽音 拾百 ·四石三斗七升壱合 1.武拾四石八斗弐升 永救 貸麦

/算用詰

風俗之事

賑々敷御神事仕候、

婚礼等

1

銘々分相

応三取 集仕、

氏神祭礼之義、

毎年祭日 元服

=

者村内之者参詣群

X

村内日受土地合之事

中 内 初神 新 東向

郷

宮原 北 一西向

出 来庭 東南向

中 清

東向

候

村内人気料着健気成方ニ御座候

其外 計申候、

八小百姓之事故、

略衣ニ

而

互ニ年頭之礼仕合申

正月之義式ハ重立候者ハ上下袴着年礼仕、

呉 地 西 向

城之堀

東向

四 南 向

萩原

当村形勢気候民戸産業之事

土地

新宮原 残六ヶ所

小石砂交り

砂交り

東西南北共山高ク、 西南 1 隣村之山 = 而御座候、 Ш

付 少ク其上流水乏ク、 潤続 丰 好候村方二御座候、 大形天水雨池ニ 村 內都 て相 而 耕作ヲ家業 凌 丰 候 =

仕、 平 作間 日織延仕候、 < = 男ハ他所 土地位 ハ 商ひ、 凡中下之村方二御座候 Ш 働等 二罷出、 女

> 行程 裡標的

当村氏神八幡社之鳥居ヲ所之目当ニ仕候

所々里程目当当村氏神鳥居る

賀茂郡津江村境迄

同郡郷原村境迄

当郡苗 同郡熊野跡村境迄 代村目当迄

同 平谷村目当迄 角村目当迄

同

Ш

同 同 同 奥海田村目当迄 村 | 目当迄

> 弐拾六丁四 [拾間

三拾九丁

几 拾 九丁弐拾間

壱里拾六丁

,四拾間

拾三丁三拾間

II資 料 編

同 中 野村目当迄

八拾三丁廿九間

同初神山

/竪七丁

横拾弐丁

矢野村浜迄

凡弐里

凡弐里半

凡四里半

往還路

村内弐筋

広島迄

同 同

海田市迄

同所な

津江村境迄

壱里弐丁

同さやのかうち山

|竪四丁

横六丁

土地不宜方

右同断

土地宜キ方

右同断

同大峠山

横七丁 |竪三丁

同石仏山

毛上松

土地不宜方

一竪六丁

横壱丁五拾間

土地不宜方

一御建堂所山御制札壱枚

|竪七丁

同大桜山

/竪弐丁

右同断

横弐拾弐丁

笹垰峠麓ゟ拾六丁四拾九間

易き方 右同断 右同断 嶮き方

つふてき峠麓ゟ拾弐丁弐拾間

鳥越峠麓ゟ弐拾弐丁

赤穂峠麓ゟ拾六丁四拾間

御留嵩山

但毛上小松

土地宜キ方

毛上小松

土地不宜方

横六丁 |竪五丁

> 横三丁 土地宜方

/竪壱丁

同八幡山

右同断

|横弐丁

土地 (半方定方

毛上松雜木

壱ヶ所

与三代

壱ヶ所

けつけ

壱ヶ所

壱ヶ所

Ш

の里

凭

とらけい

地下じ

弐ヶ所

か迫

壱ヶ所

小 壱

壱ヶ所

すへり

四

六ヶ所

壱ヶ所

百田

Ŧi.

ケ所 ケ所 Ш ケ所

留 隠

田 田

几

ケ所

四 ケ所 はげ Ш

深原郡 Ш 硎

石たけ Ш とうの木山 ノ城 Ш

井上山 大原山

はくい

原

Ш

大畑山

三谷山

杉かとら山

桧嵩山 洞岩山 亀割山 持木平山

熊懸山

池

迫山

海上山

所 萩原 奥の迫 鳥田 ケ所

よこ山 六ヶ所

三ヶ所

馬之丞

弐ヶ所 彦四

岩か 壱ケ

札

主

五ヶ所 壱ケ

十王

弐ヶ所

郎山

腰林 唐谷山

三百四

「ケ所

立木松雑木

壱ヶ所 かねもり

にんふ

壱ヶ所

池

壱

大畝尻 うろ 弐ヶ所

四ヶ所 万道松 植竹

四ケ所 五ケ所

ゆ

3

2

壱ヶ所 片平

さこ

石風呂 みその 壱ヶ所 上ノ原 三ヶ所 弐ヶ所

弐ヶ所 . の 奥 三ヶ所 横尾平 久保田 三ヶ所 八ヶ所 ミむら

こや

七ケ

七ヶ所

Š

せん

五ヶ所

永山

九ヶ所

八ケ所

四ヶ所

ほうしやくし

牛神

壱ヶ所 小迫

とらふろ

壱ヶ所

長

六ヶ所

所 わた 五ヶ所 所

Ш

とうあき

三ヶ所

拾五ケ所 井

0

ふ原 ケ所

ケ所 河内神

拾七ケ所 みと山

ジ上

拾壱 の尻

五ケ所 かり上 平杉 弐ヶ所 壱ヶ所 硎ノ平 なノしふ 壱ケ所

岩崎 時 か 壱ヶ所 す 三ヶ所 Щ 根 宮林 壱ヶ所 弐ヶ所 中 垣

内 定

宮 開 0 田 ま 弐ヶ所 壱ヶ所 Ш ノ神 新手 六ヶ所

第三章 近世の資料 所 迫 ケ所

正林 ケ所

壱ヶ所

いちこ谷

壱ヶ所 大みとう

城

Ŧi.

Ш 一井原

七ヶ所

弐ヶ

Ш

三ヶ所

北迫

九ヶ所

重信

九ヶ所

浅

ケ所

つくひ迫

七

ケ所

さと

弐ヶ所

とうのこね

山田 うの 三ヶ所 ケ所 寺垣内

六

ケ所

石風呂川 右同断	八つ表川 二河川へ流入申候	五筋	入申侯 真里路村江	川上当村三谷山谷合ヨリ流出、熊野弥村通り一コノ	一比川三里流入申候	川上栃原村ゟ流出、川下者川角通り呉町へ 里程	一二河川		岩の畝 三ヶ所 松尾平 壱ヶ所	び 四ヶ所 北垣内 三ヶ所 新田 弐ヶ所	三ヶ所 本田 弐ヶ所 赤野 弐ヶ所 おく	池の平 壱ヶ所 開田作田 七ヶ所 大こみ	ケ所 いノか迫 四ケ所 よしか谷 壱ケ所	山 三ヶ所 くいひ谷 四ヶ所 七分垣内 弐	四ケ所 山さと 四ケ所 神田 弐ケ所 米	所 尾さき 壱ヶ所 友さこ 弐ヶ所 時光	2 3 A
初神	一飛渡	一初神	内四か町	諏訪	一石橋	渡瀬	馬橋	石仏	鍋屋橋	時数	明田	一土橋		松田川	城のほり	登呂川	
中溝	拾ヶ所	同壱間□	同壱間	長九歩	六ヶ所	同三間半	同四間半	同 弐 間	同四間	同五間	長六間	拾壱ヶ所			り 川		
出来庭		部。	四日	上代		7	曲田	石風呂	呉で	富田	宮の前			右同断	北川へ流入申候	右同断	
城ノ堀		同八步	町下同壱間	長壱間弐歩			同四間半	同四間	同拾間	同六間	長弐間半				候		

第三章	塚原 弐ヶ所	時かす 弐	是な	見り近れ	<u>1</u> <u>b</u>				Ī	反 面 雨 也				一池塘			新宮原	呉地	
三章 近世の資料	山崎 弐	弐ヶ所 さやのか	是ゟ村調	七拾八間	廻り凡			-	是 出 弐 間	り凡式	水留 八豆余			百三拾六ケ所		川角渡り	出来庭	徳ほうし	
	ヶ所 米山	からち壱ヶ所		堀りハ郡夫調:	出来立年数相.	一郡夫調先例	御山所渡り	替諸入用御!	而相調申候、	工木引扶持作料御	留石仏山ニ	飯米被為遣、	此池天和元.					北景渡り	
	壱ヶ所	花立 弐ヶ所		先例ニ御座候	知不申候、同	三御座候、	り内、ほり夫ハ	銀出、材木ハ	、其後ハ樋居	作料御銀出ニ	而被為遣、大	、樋材木ハ御	天和元年郡夫幷人夫					萩原	
	堤之内壱ヶ所	三入道壱ヶ所	赤野 壱ヶ所	しやうや壱ヶ所	からや垣内三ヶ所	地下じ 壱ヶ所	鳶子 弐ヶ所	きつね壱ヶ所	巻の木壱ヶ所	五重免壱ヶ所	宮の首弐ヶ所	垣の内壱ヶ所	重信 壱ヶ所	孫代 壱ヶ所	坂西 壱ヶ所	矢野地弐ヶ所	百田 壱ヶ所	土井 壱ヶ所	
	東ヶ迫上壱ヶ所	梅ヶ迫 三ヶ所	石風呂 壱ヶ所	新入 弐ヶ所	所 上坂西壱ヶ所	溝田 弐ヶ所	松田 弐ヶ所	城のほり壱ヶ所	三村 壱ヶ所	馬ノ条 弐ヶ所	三枚田 壱ヶ所	ほりの山壱ケ所	海上 壱ヶ所	寺堤をケ所	かい立原壱ヶ所	西垣内弐ヶ所	まきか迫弐ヶ所	しやらか壱ヶ所	
	からけ 壱ヶ所	長迫 三ヶ所	きた垣内壱ヶ所	山井 弐ヶ所	まかりた弐ヶ所	明神 壱ヶ所	道垣内 壱ヶ所	かじや 壱ヶ所	十方木 壱ヶ所	ちない 壱ヶ所	きらゝ 壱ヶ所	十林寺 壱ヶ所	山の奥 壱ヶ所	上松 壱ヶ所	大年原 壱ヶ所	大年 弐ヶ所	土地脇 壱ヶ所	くいび 壱ヶ所	

八幡宮	八幡山之内	神祠	7	向田 壱ヶ所	山さと壱ヶ所	開田作田壱ヶ所	法尺し四ヶ所	にんふ壱ヶ所	上明をケ所	のん原 壱ヶ所	山田 弐ヶ所	下せうか壱ヶ所	奥の迫 弐ヶ所	道ふろ壱ヶ所	北さこ壱ヶ所	柳迫 壱ヶ所
御殿 拝殿 鳥居		三拾九ヶ社		上坂面下壱ヶ所	石まへ壱ヶ所	寺垣内壱ヶ所	柄原 壱ヶ所	入なん壱ヶ所	さわらた壱ヶ所	兼森・壱ヶ所	中垣内弐ヶ所	萩原 壱ヶ所	万道松壱ヶ所	下姥ヶ迫壱ヶ所	下東迫 弐ヶ所	道いミ 壱ヶ所
店					清水ケ迫壱ケ所	貞みつ 壱ヶ所	さかや 弐ヶ所	正林四ヶ所	ふせん 壱ヶ所	水なし 壱ヶ所	砂田 壱ヶ所	新池 壱ヶ所	セラか 壱ヶ所	さしと 壱ヶ所	姥ヶ迫 壱ヶ所	くひび 壱ヶ所
右																
右山之内	熊野村 物申へ		天文四年十二月十日	以上七石三斗	同五斗 きおん	同弐斗 天王神	同五斗熊のう神	同壱石五斗 諏訪神	米五石 八幡御	熊野神田当納之事	一所持之書物写し差出	鎮座 相知レ不申由神主申	紀伊国室郡 を勧請仕候	諏訪社 御殿 拝	御旅所	祭日 九月廿九日

第三章	萩 萩 勝谷 荒原山の 神神 社 社たい	八幡山之內 右抱		真 祭 宮 十日	之内	7 才	申 候	紀州熊野ゟ勧請仕候由申伝候得共、祭 匹月十五日	権現
近世の資料	し 同 出 で 竜所 大来 王 う 王 女 年 経 社 か 社 社 本 社 本 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	八幡山之内 社内	年数相知レ不申候年数相知レ不申候	己川長子が出ている。	艾			イカー	御殿
料		切	16	カ				 供由申伝	拝殿
	す 同 岸 荒 : 貴所 八田 神た 船 幡 社 社 社	京都吉田官神主 東面 世良周防 川立	行	自 時 光 山	5	足者 相 日	京都吉田言申主	[候得共、	鳥居
	稲原 荒所 荷地 荷 神 社 社	周官神主稲荷社	ie 存 j	上 一 龍 長 長 七 大		大和	自申	年数相知レ不	
	右寺 = 所持之書類	寛永六年本山 開基永禄年中	西本願寺派広島光福寺末寺	一寺 弐ヶ寺	城の堀 荷社	初神 稲荷 社	天狗山 王社	深 牛原 神 社	新宮山ノ 午 社内
	7.	本 年 如 中 来	次広島光福 石		中すっ主社	谷 懸 り 社	初; 若神; 宫 社	新宮山之内 大神社内	丸 地子 神 社
	之書類	寛永六年本山ゟ木仏・寺号免許 開基永禄年中 釈浄喜 尊阿弥陀如来 本堂庫裏憧楼釣鐘無名	石嶽山 光教坊	真宗	五重射天	明神 平原	牛 同 神 社	内 二十杉	権現社
		名			大重 年 社	金 毘 羅 社	山 神 社	荒根 神 社	金毘羅社

富小 転法輪中納言公修卿御筆 路三 位 良 直 卿 御筆 和歌 同

卷山院大納言愛徳卿 御 筆 司

三宝戸大蔵大輔光能朝臣御筆

X

西本願寺派広島円竜寺末寺

玉泉山 西光寺

本尊阿弥陀如

来

本堂庫裏

開基慶長 六五 年 釈祐浄 鐘楼鐘銘安芸郡海田住植木源兵衛藤原直昌作

寛永十酉年本山ゟ木仏・寺号免許

弐拾壱字

堂

差 地 費 り 同 地所 蔵

初神 観音 堂

光教坊 薬師堂

山 薬のたい

地立 蔵

新宮原 野沙門

地岡 不尚 動 蔵

同十所 時数 蔵

重清 虚空蔵 主 光 観 教 音 坊

堂上 薬師

清水

具地 蔵

宮脇 宮脇

薬光 師

地蔵庭

廃寺

壱ヶ所

御座候由申伝候得共、 当村之内新宮原毘沙門 不申毘沙門堂御座候 山之内十 何頃な廃寺ニ相成候哉相 林寺与

知レ

申

地蔵に

古城 跡 弐ヶ所

壱ヶ所、 頃ゟ居城ニ候哉相知レ不申 御留嵩山城主菅田豊後与申伝候得共、 候

何之

壱ヶ所、

野山之内ときの城山城主申伝候無御座候、

住居後、 古戦場古跡、 墓銘諸之類申伝無御座候 先年取合詩歌、 永禄又

之由申伝候、又雲母山 当村新宮原毘沙門堂傍ニ清水御座候、 = 至而宜敷水御座候 此水霊水 是者

金水之由申伝仕候

名勝

当村野山之内洞岩と申岩、 相見申候、 又白石与申岩、 平日泪 깯 方至而白き岩御座候 流懸り候様

不申、 善人ハ動かし申由申伝候

又ゆるき観音と申岩御座候、

悪心之者

ハ得動セ

薬種

桔梗

半夏

大黄

にん冬

旧 家

村 內旧家数多御座候得共、 由緒書所持仕候

者 1 無御座候

物産

穀 早稲 中 晚 田 餅 小豆 米麦 大豆

Ŧī.

小小麦

粟

大麦

雜穀 黍 唐黍 空豆 蕎麦 胡麻

第三章 近世の資料

| 罌粟

宇和

豆

菜蔬 せり

めうか

ふき

蓮

牛房

里いも なすひ

さつまいも なた豆 大根

かふ

ちさ

ほうふら

にんじん

白うり きうり

くわい

かしの実

りやうほう

うこき 松たけ

柿 梨子 ゆす 梅

栗

果物

花

梅 桜 桃 菊 笹百合

椿

躑躅

木

杉

柿

松

槙

樫

椋

桜

榁 栗

えんじゆ

柳

紅

葉

鼠もち

鳶

鵜

鳩

時

鳥

鶴

艦

鳥

鷹

鴦 燕

雲雀

鶯

雀

Ш 鳥 鵬

猪 鹿 雉子

犬 猫 狼

狸

土竜 鼠 兎 鼬 獺 雌狸湿(腸か)

獣

狐

鰌魚 鼈 田栄螺 鱣

水中

守宮

魦

鮒

鈴虫 螳螂 はい 蟇 百足 蛇 蝸牛 蚊 旦虫 蟬 蛞蝶 蟻

蛍

蜻蛉

虫

蜘 螽

楮 山繭 綿 たばこ

作間

農器当村之儀牛田村な書出シ候通りニ御座候

外二 拾六軒

革田小屋

五百八拾壱軒

厩牛屋

人数 三千四百五拾八人 八百弐拾五人

百姓

社人

右懸り人

弐千五百拾三人

右懸り人

戸口之事

家数千五百五拾弐軒

八百弐拾五軒

百姓

四人

弐人

出家

右懸り人

拾弐人

医者

右懸り人

医者 出家 社人

壱人

漁人

壱人

弐拾人

弐拾軒 壱軒 拾壱軒 四軒

浮過 漁人 職人

七拾六軒

納屋

7

六拾五人

右懸り人

浮過

右懸り人

右当村之義、如此御座候、以上 一牛馬 外二 文化十二亥年 内 内 一世九人 /世七人 五拾六人 |拾五疋 /四百四拾五疋 四百六拾疋 男 女 馬 [牛欠] 革田共 組頭 庄屋 同 同 同 利兵衛 作太郎 千兵衛 半 秀太郎 [7] 高弐千五百五拾八石六斗五升 7 /二千四百五拾石二升壱合 内 懐中必用録 此内三拾四石二斗 懐 辛 文 中 久 酉 元 九 必 年 月

用

録

広島県立文書館所蔵

惣畝二百五拾二丁六反三歩 内

百八石六斗弐升九合

御明知

津村亀次郎様当分明知

御給知

当分明知添百四拾二石八斗弐升九合二成

二百二丁二反四畝廿一歩 田方

斗代槩壱石一斗一升一合九毛八弗 高二千二百四拾六石九斗八升四合

四拾七丁七反廿七步 高二百六拾二石七斗三升三合

島方

斗代槩五斗五升六合九才九毛余

二町六反四畝廿七歩

屋鋪

斗代 壱石八斗五升也

慶長六丑年 御地詰

片作地 凡三歩方

延享三寅

御地コブリ

(当酉迄百十七年

但晴雨ニテ増減有ル

同千五百石 天水雨池掛リ 凡高四百石

井手カ、リ

早損所 水損所

/凡七歩方 同三歩方

上: 四歩方

一中之村柄

但

中

二歩方

鍬先開 定御見取米

惣定数 九百五拾四軒

五百三拾三軒 成立

/三百七拾一軒

メ九百壱軒 貧民

人数合四千八百四十二人

寺 光教坊 二ヶ寺 寛永六年寺号 文録年中開基

木仏

同寺鐘無名

西光寺 寬永十酉寺号 慶長六丑開基

418

四町一反五畝九歩

一下 四歩方

七石五斗六升壱合

内

男女人数四千六百廿七人

浮過

四拾七軒

弐百拾五人

男女人数

X

社倉麦

三百壱石三斗二升

同寺鐘植木源兵衛作也

牛馬屋 社家

六百拾三軒

牛数 五百拾三疋

七疋

但救人数六百廿八人

残百九拾九石八斗二升

此内当酉難渋二附御救捨

百壱石五斗

御囲籾見込

百廿八ヶ所

神輿蔵

二ヶ所 二ヶ所

一同六石七斗五升

正麦貯

残四十九石一斗六升 百五拾石六斗六升

百姓持分

二拾軒

医師

六人 上段全ク 惣家数

二人 一之内也

四人

人数百六人 男女トモ

革田小屋

百廿三ヶ所

内

四石五斗

御救麦

救人数

廿壱人

蔵

ケ所

郷

社倉蔵

馬

土蔵

内

職人

盲人

盲女

第三章

近世の資料

六百九拾俵半

二百拾三石二斗六升二合

此俵

御囲籾

メ(但永貸ト救麦ハ石数同

二石二斗五升 永貸麦

不残御救捨二成

編

諸給米幷諸賃米

三拾六石三斗

(諸給米賃米とも

拾壱石

内

四石五斗

六石六斗

筆者給

庄屋給 組頭三人給

御山番同 年行司同

送り番同 野山番同

新宮送り場同 小走り同

升取同

蔵番同

(広島宿賃米

革田給 (海田市同断

外二

石橋 拾六ヶ所

小川・石橋幷土橋・雨池

土橋 拾九ケ所

雨池

当時百五拾四ヶ所

此内当度御道筋

寺堤池水持 矢野地池同

弐反

一御建山 御山所 八ヶ所 /竪七丁

一御留山

(境峯水走り限り後平ハ奥海田・中野村分

横廿二丁

堂所山

境峯水走り限り後平へ奥海田分

|御山所ノ内ニ不働有ル

横六丁 |竪五丁

嵩

Ш

初神山

/竪七丁 横拾二丁

境当村之内、 野山限り

第三章 近世	宮山	平地山西向		但此ノ山ノ内ニ		_ [F	草地山東南向	境内南ハ大桜谷	- Ţi	一司 片平山西向	Ī	一同	境右同断		一司 片平山南西向	境峯水走り限り東賀茂郡津江村	_ F	一司 片平山北東向
近世の資料	横五拾間	/竪一丁	路坊社	権現社有ル	八幡社	横二丁	/竪一丁	境内南ハ大桜谷限り北ハ当村野山	横三丁	竪二丁	横一丁拾五間	竪三丁		横七丁	(竪三丁	東賀茂郡津江村	横六丁	竪四丁
	新宮明神山					材料	ノ番ー	Щ	大桜山	トノキ	j	石仏山		I	大垰山		in i	サヤノ可勺山
	をを所	南向	境北ハ中野村		壱ヶ所	境北西中野村		東向を所	1 世紀 スラー 阿司	竟峯水走り艮西へ奥毎田寸	壱ヶ所	東向	西ハ平谷村かきの木迫大石限	/境峯水走り限北ハ奥海田村	老ヶ月	唇向 f	内	一野山拾八ヶ所
	(横拾二丁	/竪八丁		横拾丁			根三	黄三丁	/SEATE オ	八起毎日寸	横五丁	竪五丁	での木迫大石限り	れ、奥海田村	横拾八丁	竪五丁		
	唐谷山				三谷山			杉かとう山			熊か掛山				権力嵩山	章 - 3 - 1		

西南向を所	境峯水走り限り	西向を所	をを所	境東ハ賀茂郡津江村	7 	声向 を が 新	但二重山	Ē	北向 を対	南へ同郡津江村境峯水走	/境賀茂郡熊野跡村川限	7 分 万	北南向	境北東ハ賀茂郡熊野跡村
(立拾丁	賀茂郡津江村	(横廻り拾五丁	拉村	横拾三丁	立三丁		横拾五丁	立三丁	発率水走り限り	川限り	横拾五丁	竪五丁	野跡村
はぐい原山		亀 割 山	トキ城山						大畑山				掲 上	
北向 を 所	(西境ハ当郡川角	北向 をか 所	(境南ハ苗代村境泪岩南畦)	北東向	北ハ同郡津江村境めがム嵩	/境峯水走り限り	を表す。	西南向	東ハ鳥越峠峰水	/境南ハ峯水走り限	を存り	西北向	南麓ハ足谷落合	/境峯水走り限り
位 立一丁半	ハ当郡川角村東さるこ池谷限り	(横 世 間	旧岩南畦限り	立立立	境めがゝ嵩しり限	東ハ賀茂郡郷原村	横拾五丁	一	水走り限り 賀茂製	限り 苗代村	横十七丁	一立十丁	シリメカ、リヘ	賀茂郡津江村
井ノ上山	段り	池の迫山		泪 岩 山	限り	财村	\$ 大 口		賀茂郡郷原村		V S))) !	、リ合限り	

第三章 近世	手 片 石	田代原		立石	大ウネ		ヤ 白 ン 石	2 / 2 有 7 -	エレド 睍音	内	一名岩 五ッ	一腰林 三百四拾ヶ所	拾		北向 を 所	Ā Ņ	平地山
近世の資料	廻十一間半	/高三間半	厚八寸	幅壱尺五寸	高四尺	一廻り十間半	高二間半	廻り四間	高六尺五寸			所		横五丁	立 三 丁	横五丁	立五丁
															石島山	プ原口	て 京
	東北へが売り	/西南ゟ	一西北え	/東南ゟ	南北 凡壱里	/東西 凡壱里半	一村広狭之事	一堂廿一字	7	(権現	氏神三社 新宮	一八幡	内	一神祠 三十九ヶ所	7	淮	泪岩山 言:
	113		万 三 二 三	± :	凡壱里三十四丁	半) E ((*)			横世間	高拾九間

村内往還路 二筋

但里程之事

(平谷村境より津江村境迄 (平谷村境ョリ熊野跡村境迄壱里三十壱丁 壱里二丁

/熊野跡境ゟ萩原通り苗代迄

矢野浜へ 二

· 壱里三十四丁四十間、

凡二里也

広島 海田市 四里半 二リ半

呉町 三里

四里半

内海

IJ

当度御昼所 苗代村平三郎所迄 城ョ

同村境迄

同村境迄

平谷村境迄 苗代村境両行違

平谷村軍兵衛所へ 廿 十四丁

壱里

壱里 但シ三十六丁

桶 与や清 不 へ

浪蔵 大順 道周へ

七十五間

八十間 九拾間

七十間

六十五間

六十間

三十五間

百間

与平へ 岩助へ 保兵衛 岩助店

弐拾間

彦兵衛へ 三十間

四十間

四十間

七十間

喜助へ 多三八へ 勝八へ

次左衛門へ

八十五間

西光寺へ

百間

光教坊へ 九拾間

城ョリ亀割峠迄廿四丁 同所ヨリ平谷境迄

重蔵 利兵衛 **杢右衛門**

同

断

幾右衛門

吉川

二里

上七 0

川角

凡三里

壱里半 十八丁

田

壱里余

壱里余

津江 熊野 奥海

四里

弐拾

麓

1 74

+ H

・ノ城 市 村 跡

十十

司

壱里 **浅十**丁

三丁余

八幡社 新宮社 嵩山 絶頂

第三章

近世の資料

一八島外守様

御下宿

一天野保石様 同八人 一蒲生織之介様

小五 部様

一同七人 石·人

一原新五日

兵衛

様

添亭主

西光寺

孫平

(一高橋太右衛門様) (同五人) 御上下四十壱人」

一小川猪太郎様、同断御歩行

(一正岡源之助様 (御城郡御役所詰

悦様 西 1光寺部

屋

(同断坊主

亭主 半兵衛

(一波多野八百様) 一波多野八百様 /勤中御勘定所物書役並

御小人衆

一平田伊久馬様同九人 五人

「二口合四十八人」

一小池熊太郎様同四人

一浅野八左衛門様同八人 四人

与三右衛門

亭主

一長尾正司様

一 育 藤

光教坊

一植木半助様 三人

一小幡宗次郎様同弐人

一渡辺九平様 一山田市之介様 同二人 柏村辰蔵様 御先手足軽衆

一井上彦之進様同七人 四人 一市川仲之介様 メ「三十九人」

一道家牧太様

一今中清十郎様

一松井直馬様同四人

一池田雅登様 一山香又四郎様同二人

今中兵馬様

一八木卯三郎様

宿 主

岩助

周左衛門

亭主

一石川直之進様

一多田半蔵

一平山猪三郎岛 一小出保登様 一山中硯庵様 一佐竹玄白様 一三宅養春様 一武井群司様 一同弐人 一同 林三 人 一今田幾之助様同弐人 一渋江藤之亟様同二人 一岡田嘉司馬様同二人 メ「三十弐人」 一新保弥 万次郎様 司馬亟様 郎様 様 岩助 亭主

権十郎

店

メ「三人」

| 一中尾孫一様 | 同十五人

一井上武兵衛様

宿主

一浮気新十郎様同三人 御歩行目

付

メ「十四人」

一篠田理右衛門様同二人

杢右衛門

一高松源之丞様御左右歩行小姓 藤田藤左衛門様 成瀬豊平様 加藤保之丞様

小山多賀次郎様

渡部助三様

清八

賀屋亮之助様 三上勘助様

庄左衛門

林

滝次郎様

編

長沢亀三郎様 林馬太郎九様

メ「十五人」

森脇孝太郎様

一田坂権左衛門様一世四人 一渡部幸次郎様同所御歩行

亭主 弥助

一三戸徳之助様御勘定所物書役

太郎左衛門

一坂村多右衛門様御勘定所支配足軽

一吉村永蔵様 十八人 内拾壱人御本陣

一吉田寛次郎様同所肝煎同かり 御肝煎衆

御下男衆

御定人衆

十六人

メ「十四人」

壱荷

差荷 御長持 御帳箱

壱荷

内

四人御本陣泊り

御小人衆

九人

十九人之内八人御本陣 メ「弐十五人」

駄荷 壱荷

一佐藤金右衛門様 田頭益次郎様

山下新次郎様 金白八十八様

勝八

御肴持

御小人

弐人

吉右衛門件

一永井久賀様 御居間坊主頭取

水津可朴様

御小人 弐人

内弐人

御本陣

内壱人

御本陣

一 池田 喜 斉 様

清水元佑様

新庄洞水様 原 文斉様

宿

多三八

吹本栄佐様 笠間良賀様

> 亭主 元七

御小人 拾壱人 内三人御本陣泊り 笠間玄斉様

内五人御本陣泊り

一小林月峯様

メ「十九人」

御次 野村清意様

渡部栄二様 貞甫様

沖

第三章

近世の資料

桶や

亭主 多助 与平

メ「六人」

御帖箱 壱荷

一高田喜六様 一志田幾次郎様御納戸御仕立物師

浪蔵

亭主 良八 メ「六人」

加藤留次郎様 大御小姓頭物書 が書役並

彦兵衛

小島澄馬様 大小姓頭物書

亭主 七郎右衛門

a 武 永 格 助 様

御小人衆

弐人

メ「十七人」 亭 太郎右衛門	一御持足軽衆 喜助	は分城長屋御成	メ「廿弐人」	(一) 一) 一	一	ダ「七人」	田部恒之助様	井上雄之助様	坂本群蔵様 亭主 藤右衛門	滝村万次郎様 大順	竹下甚之丞様	大山太郎平様	伊藤半次郎様	海帕希·		
右之外自分雇通候人足銘々宿へ	(十助	/仙吉	一日雇方 七兵衛		一御手廻り宿 /宿主 重蔵	人勘助	御小人衆	(丁主 武平	一 御下触衆 喜三次	(丁 徳三郎	人別衆 道周へ	祖馬 弐疋	外二	多田弥五郎様 亭 孫右衛門	一御馬捕衆理七人弐人小頭	

第三章 近世		木月戸言	寸用听吉	Ē	一己上次方一波多野様御案内		- ツ ・	一 大 回 り			一番人		一割庄屋衆			一御番組様	一御代官様
近世の資料	為三郎	惚功	(業) 2 復見	新三 新三 野		保右衛門	卯右衛門	信太郎	佐太郎	吉兵衛	数右衛門	八十七	/喜助店	八十平	仙兵衛	宿 甚助所	宿主次左衛門所
	御本陣	一にしめ受渡し	爱 石雀門女		一飯方		一御弁当所		外二手遣 拾人								
		金右衛門	菊次郎	勘三郎	庄三郎 庄本郎	徳太郎	百平	勘左衛門		勘三郎	庄太郎	基七	佐右衛門	清助	久左衛門	嘉平次	弥兵衛

出 庄役 屋 御代官様 次郎 II一 多 三 郎 掃|掃引 御番組様 健兵衛 御奉行様御奉行様御案内 資 伝三郎 源次郎 祐四郎 健 太郎 手遣拾五人 料 三右衛門 第右衛門 編 御行列 次郎右衛門徳右衛門次郎右衛門徳右衛門 御番組様 兵左衛門 六郎兵衛組頭 御代官様御案内 御用懸り附 市郎右衛門処 呉町御昼 御野立 御小休 庄山田御泊 和庄村 阿賀村 沢原八左衛門処 八十平 順三郎 孫次郎 八十七 助左衛門 b 「二十二丁」「廿八丁」「廿七丁余」「廿三二十三十二

第三章 近世の資料

御

小休

海田市 廿三丁

御野立 栃原村之内

平三郎処 平三郎処

健太郎 健太郎 健太郎 是

軍兵衛 軍兵衛処 平谷村御小休

[4][1+] [4 中上 ΓHH ア1 「中八丁」「壱

4+111

矢野村 御泊り

新左衛門処

石嵩山

大原山・

亀割大垰山

御野立

矢野村之内

御留大桜山

右側

御通筋古城跡·

寺社幷御山所其外順々左右

苗代村御建観音 御通行野山泪岩山左側、 山之内少シ

=

なみた有

ル

右ニ当リ野山トウノキ、 新山

右ニ当リ遠山はぐい原 モシキ平山、 川越しニ有

ル

腰林之内少し御 右ニ当リ野山 トキ 通 ・ノ城山

(右ニ当リ 名 此山絶頂ニ城跡有 当リ 御建堂所山相見 野山三谷山 相見

> 申 申

候

候

12

此山 /右ニ当リ御留メ石嵩山 = 古城跡有 12

凡二里

御帰城 御茶屋

右ニ当リ光教坊

右ニ西光寺

|外二小社二社 /右二御留八幡山此内二氏神八幡本宮

右ニ御留石仏山

/右ニ赤穂峠有

|此峠麓ゟ絶頂迄十五丁、本陣ゟ弐十丁

右ニひの木嵩山 夫より平谷分ニ成ル

(裏表紙)

熊野村

彦三郎手控

[解説] 文久元年(一八六一)六月広島藩主 浅野 長 訓

から栃原・苗代・熊野・平谷諸村を通過、矢野村(宿 (安芸守)が領内巡視のとき、安芸郡庄山田村(宿泊)

接の覚書であり、その初めに熊野村況の概要が示されて

泊)から海田市をへて帰城したときの熊野村における応

いるので、ここに収めた。